

## ■久永市議の質問への教育長の答弁

2018.05.29 本会議

私から御質問の「子どもの自立に向けた継続的な支援について」の1点目「不登校の子どもたちの居場所づくりの充実・拡大について」の1項目目「「不登校」の子どもたちを通し、大府市として、大事にしていること、向き合うために意識していることは何か」についてお答えし、その他の項目は担当部長が答弁いたしますのでよろしくお願ひいたします。

本市では、「心身ともに健康で知恵と愛をもつ子の育成」を学校教育の基本理念として、その実現のために行政と学校教職員が一丸となって教育と向き合っています。不登校の児童生徒は全国的にも増加しており、本市も例外ではありません。その背景として、一人ひとりの状況が異なり、保護者の悩みや困り感も多様化・深刻化していることがあげられます。

本市における不登校対策として、不登校及び不登校傾向にある児童生徒の状況や変化の把握、適応指導教室「レインボーハウス」の運営、年間1600件を超えるスクールカウンセラーによる相談、いじめ悩み事電話相談の実施など、体制の充実に努めてまいりました。

そうした中、関係教職員は「いま目の前の子どもを救う。そして、新たな一人を出さない。」という思いで、日々子どもたちと向き合い、保護者との関係づくりにも努力を重ねています。各校では、いじめ・不登校対策委員会を開き、情報及び対応に関する意見交換を行うとともに、適応指導教室が推進する大府市不登校事例研究会にも自主的に参加し、力量向上に努めています。何よりも関係教職員一人ひとりのこうした姿勢や思いが大切だと私は考えています。

本市のすべての子どもたちが、笑顔で互いに切磋琢磨しながら学び合うことができるよう、学校と保護者、そして教育委員会が協力・連携しながら子どもや保護者の悩みや困り感を少しでも解消し、一人一人を大切にされた教育が展開できるよう努力していきたくと考えております。